

Forest Good 2018 間伐・間伐材利用コンクール 間伐実践・環境教育部門
林野庁長官賞
NPO 法人 緑のダム北相模

取組の名称		相模湖・若者の森づくり
取組の概要		相模原市で 1998 年より荒廃する人工林の整備ボランティアを開始。森をつくる、いかす、つなぐを活動の柱に、現在は若者による森づくりに重点をおいている。地球環境部と呼ばれる都市部の中高生を中心に月 2 回活動し、間伐材の積み木を使ったイベントも数多く行っている。
取組のきっかけ		森林ボランティア活動に中高生が定期的に参加できていることから、彼ら自身で管理する森、崩落跡地にトチノキを植樹する望星の森を設定。のちに周辺スギヒノキ林に範囲を拡大、間伐枝打ちを開始。2015 年から彼らが主体となる知足の森の活動を開始。境界線画定など 1 から作業。
取組内容・特徴		月 2 回の定例活動には 4 校の中高生、その卒業生が参加。間伐、枝打ちといった森林整備を行い、GPS などを使った簡易測量で境界線の調査も行っている。積み木を使ったイベントでは、上智大、学芸大、JR 東京駅、JAXA 相模原、積水ハウス、パタゴニアなどと協働。
実行体制・安全対策等 (他団体との連携状況を含む)		間伐枝打ちなどの際は複数のベテランボランティアが入り、安全確認を行っている。また国土緑化推進機構の助成などを活用し、プロの林業家による安全指導も行っている。さらに間伐時は 360 度カメラで動画撮影し、後日伐倒方向、立ち位置などを復習できる仕組みを導入している。
実績	除間伐実績	会全体として相模原市内の相模湖嵐山の森 40ha、小原本陣の森 80ha、知足の森 10ha を整備
	環境教育	中高生が継続的定期的な森林整備を行う事例は珍しく、毎回 10-20 名、月 2 回、年間でのべ 200-300 名が参加。夏には山梨県小菅村での合宿を実施。本年は日本環境教育学会でも中学生が発表。
取組による効果等		継続的な森林整備活動により、森は明るくなり、多くの中高生が日常生活では感じ得ない達成感、充実感があり、その成果を学芸大の研究紀要に投稿、掲載。その後、上智大とも連携し、積み木のイベントを行い、さらに企業イベントを行い、間伐材活用についての理解が広がっている。
製品等の写真、図表		<div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div style="text-align: center;">  <p>間伐し、集材した前で記念撮影</p> </div> <div style="text-align: center;">  <p>積み木を使ったイベント、アンコールワット制作</p> </div> </div>

連絡先等	(住 所) 〒252-0172 相模原市緑区与瀬本町 12 かどや食堂内 (担当部署等) (電話番号等) TEL : FAX : (URL) http://midorinodam.jp
------	---

評価コメント	<ul style="list-style-type: none">○ 中高生による本格的な間伐、間伐材によるつみ木製作とそれによる木育なども行っており、メンバーの中からは森林・林業関係に就業する者もあり、人材育成の成果も期待される。○ 活動回数・活動面積も多く、大学をはじめ多方面との連携を図り、継続的に実践されている点を評価○ 森林再生のNPO法人として有名な団体だが、森林、木材の有効性と間伐の必要性を、特に次世代に意識的に伝承する取り組みとともに、若者が興味を持つGPSや全方位カメラなど先進技術を取入れた森林再生活動を評価したい。会員の多くが定年者から年輩者で自らの価値観で若者に一方的に意義を教えるのではなく、若者の興味をひくことで、さらなる若者の参加者の増加につながる好循環がヤマの現場で形成され、他に波及させるモデルとなり得る。○ 継続した組織的取組は他の模範である○ 発信力があり、多感な中高生に焦点をあて教育している点と、年間200~300名と大規模で教育している点を評価○ 次世代育成に大きく貢献している点。多様な主体と連携してイベントをしたり、研究に活用されている点。
--------	---